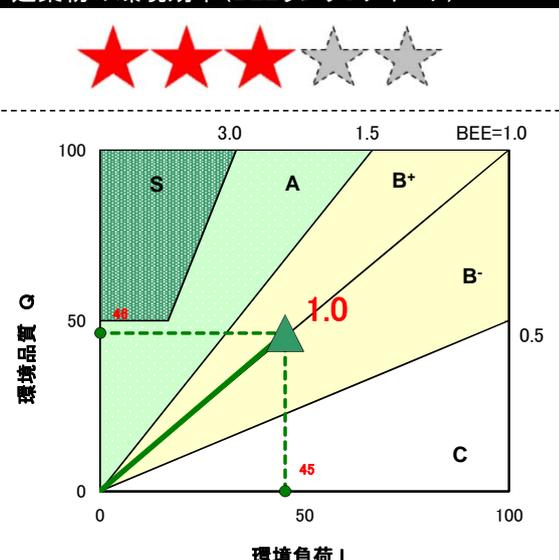


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	特別養護老人ホーム早尾園及び介護	階数	地上1F		
建設地	熊本県八代郡氷川町今字西作175-	構造	木造		
用途地域	市街化区域、指定なし	平均居住人員	393 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2018年9月 予定	評価の実施日	2017年3月6日		
敷地面積	25,258 m ²	作成者			
建築面積	9,584 m ²	確認日	2017年3月6日		
延床面積	8,893 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.0

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

93%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価		評価点
		82
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	評価点	86.1
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	評価点	77.5
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	評価点	87.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	評価点	71.2

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 ■使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	特別養護老人ホーム早尾園及び介護	階数	地上1F
建設地	熊本県八代郡水川町今字西作175-	構造	木造
用途地域	市街化区域、指定なし	平均居住人員	393 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年9月 予定	評価の実施日	2017年3月6日
敷地面積	25,258 m ²	作成者	
建築面積	9,584 m ²	確認日	2017年3月6日
延床面積	8,893 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	93%
③上記+②以外の	93%
④上記+	93%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

音環境	2.6
温熱環境	1.7
光・視環境	3.4
空気質環境	3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

機能性	2.9
耐用性	3.1
対応性	2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

建物外皮の	4.0
自然エネ	4.0
設備システ	3.0
効率的	2.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

水資源	3.8
非再生材料の	2.7
汚染物質	3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

地球温暖化	3.2
地域環境	3.0
周辺環境	3.2

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 **評価点 = 82**

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 86.1	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 77.5
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 87.5	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 71.2

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

建物屋根を勾配屋根とし、周囲との景観の調和を図った。
道路面からの圧迫感に配慮し、道路境界から約40mセットバックし建物を配置した。

Q1 室内環境

・ F☆☆☆☆ 建材を使用。

Q2 サービス性能

・ 設備系統はメンテナンスを考慮し地下ピットを設けた。

Q3 室外環境（敷地内）

・ 敷地内に緑地を設け、暑熱環境に配慮した。

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

・ 断熱材はすべてノンフロン。

LR3 敷地外環境

・ 適切な数の駐車駐輪スペースを計画し、出入口附近での車両の軌跡検討を行い、周辺の交通負荷軽減に配慮した。

その他

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境		2.6	0.15	2.8	1.00			2.8
1.1 騒音	【共用部】(待合)ホール50dB、(診療)相談室40dB【住居部】居室35dB	3.0	0.40	5.0	0.40			
1.2 遮音		3.0	0.40	1.6	0.40			
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	1.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	1.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	1.0	0.20			
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境		1.7	0.35	1.5	1.00			1.7
2.1 室温制御		2.5	0.50	2.1	0.50			
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57			
2 外皮性能		1.0	0.25	1.0	0.43			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20			
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30			
3 光・視環境		3.4	0.25	3.6	1.00			3.4
3.1 屋光利用		4.6	0.30	5.0	0.30			
1 屋光率	【共用部】4.2%【住居部】3.3%	5.0	0.60	5.0	0.60			
2 方位別開口		-	-	-	-			
3 屋光利用設備	トップライト・天窗	4.0	0.40	5.0	0.40			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30			
1 屋光制御		3.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25			
4 空気質環境		3.9	0.25	3.6	1.00			3.9
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆建材の採用	4.0	1.00	4.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.30	3.0	0.38			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-			
2 喫煙の制御	建物全体が禁煙	5.0	1.00	-	-			
Q2 サービス性能								
1 機能性		2.9	0.40	3.8	1.00			2.9
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性	個室10㎡/床以上、多床室8㎡/以上	-	-	5.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-			
3 バリアフリー計画	バリアフリー-建築物移動等円滑化誘導基準項目を満たす	4.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40			
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-			
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50			
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	超高耐候塗料の使用等	4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30	-	-			3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	窯業系サイディング	5.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管(B)、排水管(B)、給湯(C)	4.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性			3.0	0.20	-	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備	節水機器の使用等	4.0	0.20	-	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			2.9	0.30	2.6	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり			2.2	0.30	2.2	0.50	
1	階高のゆとり		1.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	【共用部】比率:0.20、【住居部】比率:0.16	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			2.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			4.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材、仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。(ピット配管)	5.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造部材、仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	構造部材、仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	仮設スペースが確保でき、機能維持できる(ピット配管)	4.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップスペース計画あり(建物周辺部、敷地中央駐車場部)	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域に開放された広場を設置	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.56	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		トップライト、天窗の採用	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		BEI _m 非住宅 0.92 住宅(専有部) -	3.0	0.50	-	-	3.0
		集合住宅以外の評価(3a.3b)	3.0	1.00	-	-	
		集合住宅の評価(3c)	-	-	-	-	
4 効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5
		集合住宅以外の評価	2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
		集合住宅の評価	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1	節水	・節水コマ、節水型便器(グリーン購入適合品)	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60	-	-	2.7
2.1	材料使用量の削減		-	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.11	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	分別可能(木造下地:木組、鉄骨造下地:LGS下地)	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ロックウール・グラスウール・ポリスチレンフォーム	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		省エネ設備の導入	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.3	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	動線の配慮など	4.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインチェックリスト(屋内・屋外・広告物)の過半を満	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

建物名称 特別養護老人ホーム早尾園及び介護老人保健施設八祥苑

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		82
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				86.1	0.40	34.44
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.06			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	4.0	0.06			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.06			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.17			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.0	0.22			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.0	0.33			
LR2-2.1	材料使用量の削減	0.0	0.00			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.11			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				77.5	0.20	15.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				87.5	0.20	17.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	4.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				71.2	0.20	14.24
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.6	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.9	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数